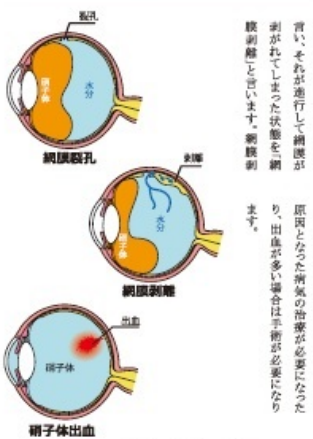


飛蚊症は放つておいても大丈夫？

飛蚊症の原因となる「硝子体」の周りのほとんどは、硝子体が目の中で凝り固まる。後部硝子体剥離という現象で起こります。これは加齢に伴う生理的変化です。若い人でも近視の強い人は、後部硝子体剥離が起こりやすく、飛蚊症を自覚しやすくなります。

このように、飛蚊症のほとんどの場合は、生理的変化によるものなので、心配はなく、時間が経つにつれて症状が軽くなるまで、気にならなくて大丈夫です。



では、飛蚊症は放つておいても大丈夫なのでしょうか？実は、飛蚊症には重大な病気が隠れていることがあります。特に、急激に飛蚊症が増えたり、視野が欠けたり、物がゆがんで見えるなどの症状が出たら、危険なサインと警報です。

飛蚊症の危険な変化は危険なサイン！

飛蚊症を来す重大疾患は次のようなものがあります。

◇**網膜裂孔・網膜剥離**
「網膜」という目の神経に穴が開いて、網膜が剥がれてしまう病変です。網膜に穴が開いた状態を「網膜裂孔」と言い、それが進行して「網膜剥離」が起これば失明の恐れがあります。網膜剥離と診断された場合は、手術が必要になります。

◇**硝子体出血**
網膜の血管が破れて、目の中に出血を起こすものです。糖尿病や高血圧、外傷などに伴って起こることがあります。出血の原因となった病変の治療が必要になったり、出血が多い場合は手術が必要になります。

飛蚊症のほとんどは心配なものですが、ときには思いがけない病気が隠れていることがあります。飛蚊症の症状に気が付いたら、眼科で検査を受けるようにしましょう。早期発見、早期治療で失明を防ぐことができます。



こんなもの見えませんか？
あなたも一度はあるかも・・・

飛蚊症

特集 II

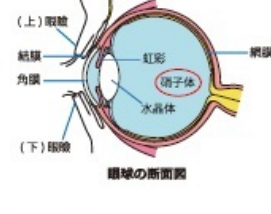
視野にごみや虫のようなものが飛んでいるように見えたことはありませんか？大したことないと思われがちですが、自己判断は危険！中には重篤な病気が隠れている場合もあるのです。

飛蚊症の正体は？

下図のように、眼球の中は硝子体というゼリー状の物質で満たされています。本来この硝子体は無色透明ですが、加齢などにより、このゼリーの中に濁りが深い

黒い点や虫のようなものを、鷹のようなものが見えませんか？

皆さんの中にも、一度は経験したことがある方がいらっしゃるのではないでしょうか？目の前に糸くずや虫、水玉のようなものが飛んでいるように見えることがあります。目を動かしても、目を擦っても消えません。目を動かしても同じ方向についてくる。このような症状を「飛蚊症」と呼びます。特に白い点を見た時、空を見上げたりすると、よく見えることがあります。ほとんどの場合は、加齢などの生理的変化によるもので、心配ありませんが、まれに網膜剥離などの重篤な疾患が隠れている場合もありますので、注意が必要です。



てくも、蚊やがもを見ようとした時に、その濁りが視野の中心で、見えるようになり、これが飛蚊症です。飛蚊症は、目の口の濁りが原因です。当然、目を動かすと、一緒に動いていくように見えるわけです。

あらかぎ眼科
柏崎市扇町1-7 ☎0257-32-8008

院長 荒木 茂 氏

【プロフィール】
平成14年富山大学医学部卒業、新潟大学医学部附属病院、新潟市立病院、鹿野市民病院、長岡赤十字病院勤務を経て、平成19年より柏崎総合医療センター眼科医長および柏崎中央病院眼科医長兼務。平成27年3月あらかぎ眼科開業。

【資格・所属学会等】
日本眼科学会認定眼科専門医、PDT認定医、身体障害者福祉法第15条指定医師、眼病指定医、日本眼科学会、日本眼内科学会、日本網膜硝子体学会、日本眼科医会に所属。

